

サマープログラム 体験談

社会福祉学部ライフ・ウェルネス学科 堤 愛美子

1. サマープログラムを申し込んだ動機について

大学生の内に一度は海外に行ってみたかったため。しかし、教職をとっているため長期休暇でしか海外に行くチャンスがないので夏季休暇中のこのプログラムに申し込みをした。

また、海外の文化や様式、コミュニティの違い、どのようなコミュニケーションを取るのかということにとっても興味があり、実際に現地に行ってその違いを体感してみたいと思ったため。

2. 現地での語学コースについて

○参加したコース(レベル)：

B1 (Art, Fashion & Design Contemporary British Culture, Food & Drink in the UK)

○コースの内容(授業内容、良かった点、悪かった点、反省点、感想など)：

1 週目のArt, Fashion & Design はJess先生が担当だった。その週の木曜日に「Trash Fashion」というテーマで自分たちで普段ならゴミになってしまうものを使って洋服をデザインから考え、作り、ファッションショーをするというものをした。洋服を約 1 時間半程で作り、ファッションショーをしたのはとても楽しかったし、日本ではあまりできない経験だと思った。あまり、文章で書く作業はなく、どちらかと言うと話す・聞くが中心の授業だった。

2週目のSammy先生の授業では、イギリス音楽、お祭り、健康、教育関係について学んだ。私は、特に教育について興味があったので実際に授業で扱ってもらってとてもうれしかった。また健康については私の学科の専門でもあるので、イギリスで勉強することができてとてもいい経験になった。この先生の授業は1週間目の先生よりも英語を書く、問題を解かせる授業がとても多かった。また、みんなの前でプレゼンテーションする機会も多かった。

3週間目のPaul先生の授業では、イギリスの食について学んだ。伝統的な食べ物の名前や種類、由来やどんな時に食べるものなのか、自分の国にはどんな伝統的な食べ物があるのか(発祥地や作り方、食べる時期など)をプレゼンテーションした。また、FF(ファストフード店)とRT(レストラン)ではどのような接客の違いがあるのか、実際に聞いて問題を解いたり、レストランで実際に注文するような場面でのどのように注文したら良いのか、お客様側と店員側にわかれてシミュレーションをしたりもした。この先生の授業は比較的、話すことがメインだったように思える。他のクラスより、発音の練習をたくさんした。木曜日には、イギリスの伝統的な食べ物を食べて、習った言葉で食レポをし、それをグループごとに動画を撮影する、ということもした。これも日本ではなかなかすることのない経験だったと思う。日本語での食レポでさえ難しいのに英語でそれを行うというのはとても難しかったがなんとか達成することができてよかった。金曜日の朝に全てのグループの映像をみんなで見たが、どれも面白かった。日本ではなかなか経験することのない授業形態をイギリスで体験することができ、戸惑うことも多かったがとても楽しかった。

どのクラスも一週間に一回、毎週金曜日にパワーポイントを作成して、プレゼンテーション(3~4分間程度)をしなければならないのだが、普段の学校生活でめったにパワーポイントを扱わないのでとても苦戦した。金曜日の午前中の1時間程を使ってパワーポイントを作成しなくてはならな

いので、普段から慣れていないとなかなか難しいと思う。1時間～1時間半ほどでプレゼンテーションを仕上げなければならないので予め文章は考えていった方がいいと思われる。USBはなくても支障はないがあった方が便利だと思う。

どの先生も優しく、怒られることはないので気負うことなく授業を楽しむことができると思う。

○授業の一環の小旅行に対する感想:

リバプール・マンチェスター・湖水地方に行ったがどれも楽しむことができた。授業内で小旅行に行く前に現地の歴史や名所を少しは学ぶことができるので、そこまで自分たちで調べなくてもよかった。しかし、リバプールやマンチェスターはとても自由行動できる範囲が広く、時間も限られているので、どうしても行きたいところがあれば予めプランを立てておいた方が良かった。湖水地方は天気あまり良くなかったためかとても寒かったので防寒着が必須である。また、食事は自分達で現地食べるので美味しいごはん屋さんなども調べておくとより一層楽しむことができたと思う。どの場所も学校のバスで1～2時間程かかり、集合時間も普通の学校が始まる時間よりも早いため遅刻厳禁である。どの旅行先も景色はもちろん、空気や建物など様々な発見があるので実際に赴くことができてよかった。

3. 宿舎について

悪かった点について、私の部屋は4階にあったので、行き帰りのキャリーケースの持ち運びがとても大変だった(エレベーターはない)。部屋によって様々な違いがあった。例えば、シャワーカーテンの有無。シャワーカーテンではなく扉がきちんとついている。自分の部屋のドアや窓がきちんと閉まらないなど。共同キッチンにおいては、各部屋(グループ)で備わっている器具や食器の違いがあった。

良かった点については、全体的に清潔感がある点、各個人部屋にトイレとシャワーがついている点、収納スペースが多い点である。クローゼットも十分な広さがあり、洋服をかけることができる(ハンガーはついている部屋とついていない部屋がある)。掃除機や箒などもリビングに置いてあったので気が向いたら掃除もすることができる。また、1階にドリンクとお菓子の自動販売機があり、ピザなどのデリバリーなどもできるので便利である。

4. 現地での生活全般について

これは一緒になるルームメイトによっても変わってくるかもしれないが、私とルームメイトはよく自炊をした。週に1～2回ほどALDIに買い出しに行き、毎日夜ご飯を作った。イギリスは日本に比べて売ってあるものの量がとても多く、その量の割には値段が安い。例えば、日本でブドウ(種無し、皮ごと食べられる)を一房かうと400円ほどするがイギリスではそれが£1.2(約168円)で売られている。食パン一斤も日本で買うと何百円かするが、イギリスでは£1.25(約175円)だった。野菜や果物、パンや肉、お菓子やヨーグルト・牛乳等食品が安かった。特に驚いたのは、牛乳が紙パックではなくプラスチックボトルに入れて販売されていたことである。しかも1リットルではなく2リットルほどの容量で売られていた。また他のサイズの牛乳でも全部紙パックではなく、プラスチッ

クの容器に入れられて販売されていた。また、日本でアイスはバラで売られていることも多いが、イギリスでは箱パックで売られているか、1リットルの業務用で売られていることが多かった。

日本から味噌汁やインスタントラーメンなどを持って行ったこともあつたか、現地ではあまり日本食が恋しくならなかった。寮の近くのTESCOにも日本のインスタントラーメンが売ってあつた。

イギリスは日本よりお金の種類(特にコインの種類)が多く、慣れるまでに1週間以上かかった。事前に調べておけばよかったと思っている。学校では教えてくれないので自分で勉強したほうが良い。日本ではコインは換金できないので、現地のスーパーやコンビニでお菓子などを買ってなんとか使えるところまで消費した。

イギリスのご飯はあまりおいしくないとよく聞くのであまり期待をせずに行ったが、思ったよりおいしいものが多かった。まずくて食べられないといったものはなかった。しかし、イギリスの料理は見た目も匂いの良いのに、いまいち味が薄いものが多くて驚いた。スイーツ類は日本と同じくらいおいしかった。ポテトチップスの味に酢(ビネガー)がよくつかわれていることが衝撃だった。キットカットなど日本でも馴染みのお菓子もよく売られていたが日本のものよりも甘かった。

5. プログラムに参加して、学んだこと、自分が得たもの、参加前の自分とどう変わったか等

このプログラムに参加して、イギリスの文化やコミュニケーションを身をもって体験することが出来た。ルームメイトはいるが、基本的に自分1人での生活になるため自分のことは自分ですといった当たり前のことだが、疎かにしてしまいがちのことを現地ではしっかりすることができた。

いつもだったら続かない日記も3週間続けることができちよつとした達成感を得ることができた。このようなちよつとした達成感をこのサマープログラムで多く得ることができた。例えば、コインでちよつと支払うことができたときや、初めてクレジットカードを使えたとき、現地の人と交流をして連絡先を交換したとき、現地の友達と一緒に買い物に行くことができたとき、互いの共通の趣味で話が盛り上がったときなどたくさんの様々な面で達成感を得ることができた。サマープログラムに参加する前の自分より、今の自分に少しだけ自信を持つことができそうだ。

流暢に英語を話せるようになったというわけではないけれど、英語を聞き取って理解をすることは前よりも格段にできるようになったと実感している。相手が何についてどのように話しているのかを話の流れや、耳に残った英単語を頼りにして理解できるようになった。英語を話すことに関しても以前より、話すスピードや発音、滑らかさは少しだけよくなったと思う。読むことに関しても、前より早くなり、より正確に読み取りことが出来ると思う。なにより、プレゼンテーションを現地ではよく行ったのでその能力は少し上がっていると思う。パワーポイント作成についても同じである。

また、現地では様々な人たちと交流することができ、色々な国の人たちと友達になることができた。(韓国・中国・イギリス・大分・東京) 同じグループになった海外の人や県外の人達とお互いに英語で話しながら問題を解いたり、一つのプレゼンテーションを作り上げて発表したりすることで絆を深めることができた。以前の私だったら尻込みしてあまり他の人と関わることをしなかったけれど、今回はそのようなことをせず自分から話しかけたりすることができて一歩前進したと思う。

6. プログラム全体に対する感想、反省

出発から現地到着まで引率される先生はいなかったが、特段その必要性を感じることはなかった。行きの香港空港での待ち時間があまりにも長すぎたので少し短くしてほしい。反対に、帰りのマンチェスター空港での時間が短く免税店を見る時間が少なかったのもう少し長くしてほしい。来年も行けたら行きたいと思っていたが2回目がいけないとのことでは残念だ。また、3週間現地の大学で勉強をして40万円ほどの支払いをしているのに単位がもらえないことも残念だ。しかし、このサマープログラムで多くの経験・体験や学びを得ることができたので、本当に参加することができてよかった。ありがとうございました。

7. その他(写真の貼付も可)

免税品の手続きの仕方などを事前に教えてもらいたかった。

8. イギリスに持って行った方がいい物、必要がなかった物について

持って行った方がいいもの→味噌汁やインスタントラーメン(量はそんなにいらぬ)・調味料(醤油・〜のタレ・コンソメ・塩コショウなど)・使い捨てコップや箸(洗い物の削減)・クレジットカード(香港空港での食事などの時に便利)・洗濯ネット(2枚ほど)・トイレトペーパー(2・3個)・常備薬・エコバック・雨よけになるパーカー・折り畳み傘・モバイルバッテリー・体を洗うタオル・長袖の服・防寒着

持って行かなくてよかったもの→シャンプーなどの洗面具類・洗濯用の洗剤・ゴミ袋・タッパー・洋服(必要最小限でいい)・体育館用のシューズ(現地の体育館は土足で良いので土足のスポーツシューズがあれば十分)・水筒

9. 休暇のプランの立て方や行った場所など詳しく教えてください。

日本で事前に購入したイギリスで3日間使えるパスを使って、ロンドンに3回行った。ロンドンで特に良かった場所はヴァッキンガム宮殿で、そこで行われる兵隊の交替式はすごく迫力があつた。人がとても多くて、その日は天気が良く暑かつたのできつたが、30分間ほど観ることができてよかった。

プランは特に立てず各々の行きたい場所をみんなで回っていくようなスタイルをとっていたため、ロンドン橋などの有名などころには行けないこともあつたが、十分に楽しむことができた。ロンドンの観光名所をすべて周りたい!というのであれば、事前に営業時間や公共交通機関の時間などを調べて綿密なプランを立てた方がいいと思う。行き当たりばったりでも十分に楽しめるが帰りの列車の時間をきちんと調べてから行動をした方がいい。

10. イギリスに持参した現金とクレジットカードで使用した金額

現金は400ポンド(56,000 円分)持って行ったが、もう少し多く持って行って良かったと思う。クレジットカードは多分7万円ほど使用した。

